ニッポン熟考

モノづくりの現場から

日本のノーベル賞受賞にアジアから羨望の眼差し

伊藤澄夫　伊藤製作所社長
中京大学特別栄誉客員教授

2018年秋、京都大学の高等特別研究院の本庶佑特別教授がノーベル医学生理学賞を受賞した。がん細胞を攻撃する免疫細胞にブレーキをかけるタンパク質を発見し、画期的な免疫療法に結びつけたというもので、がんの心配をしなければならない年になったわれわれの世代にも心強い発見だ。

翌19年秋、リチウムイオン電池を開発した吉野彰氏ら3名がノーベル化学賞を受賞した。世界で何十億の人々のポケットに入っているほか、工場やオフィスでなくてはならない商品となった。

奇しくも19年には、海上自衛隊が世界初のリチウムイオン電池を搭載した潜水艦を導入した。爆発しやすいこの電池の安全性をクリアし、潜水行動範囲を2倍にしたという、敵国には恐ろしい画期的な兵器だ。原子力潜水艦には勝てないであろうという声もあるが、大洋をまたいで作戦を行う戦略兵器を日本は必要としない。

多くの韓国人がこのリチウムイオン電池に驚愕している。同国のマスコミは日本人の偉業を伝えないため、サムスンの開発品と思っていたのだ。しかし、これほど画期的な電池の製造で稼いでいるのは中国だ。日本はこのことを反省し、今後は国を挙げて国内で量産し、毎年大きな利益を上げられるようにすべきだ。

日本への尊敬が復活

反日といわれている国から来日が急増している。彼らはイメージしていた日本との相違に仰天した。観光地は勿論、どの町を訪れてもゴミ箱がほとんど見当たらないにもかかわらず、ゴミ一つ落ちていない。外出時に出たゴミを各自が家に持ち帰ることを知った中国人が絶句したのが滑稽だった。

日本人は反日国家の国民にさえ平等に親切で礼儀正しい。中国や韓国の旅行者は、ほぼ全員日本に良い印象を持って帰国しているといい、「教育で受けた日本と全く異なる。正しい日本を紹介することでわが国も良くなるのだが」といった声が多い。このような民度の高さがノーベル賞獲得に関係があるのかという論評が中国で放送されていた。

過去には1年前後で総理大臣が代わっていたことで、諸外国では私が思う以上に評価が下がっていた。今や安倍総理は世界のリーダーとして存在感が増し、南シナ海で暴挙に出る中国に対して日本に頑張ってもらいたいという周辺諸国の声が非常に大きい。安倍総理に反発しているのは日本の野党とマスコミ、韓国人だけだろう。そしてアジア諸国から日本に対する尊敬が復活した大きな理由には、経済が回復してきたことと、毎年のようにノーベル賞を受賞することに関係があるのだ。

ノーベル賞の受賞はアジアでは日本がダントツに多く、世界でも3番目だ。香港の知人は「日本がノーベル賞を受賞してくれているので、アジア人が欧米諸国から舐められなくて済む」と言った。毎年のように受賞している日本に、中韓両国の国民はわれわれが思う以上に残念がっているが、その一方で、広い分野のノーベル賞受賞にはアジアの国々だけではなく、中国人でさえアジアの誇りだと言っている。

ある中国人は、「日本がノーベル賞を取れるのは、紙幣を見たらわかる。中国の紙幣は毛沢東という偉人だ。しかし、日本には科学者や教育者が紙幣にある。科学者が尊敬されている日本ならではだ」と言った。

ノーベル賞から遠い中韓

海外に進出した日本企業のすべてとは言えないが、おおむね現地に対する貢献（雇用・正直な納税・マナー）は突出している。日本企業は90年代からマーケットの大きい中国への進出を加速させた。その結果、現地に移転した技術をパクられた事例は数えきれない。中国での雇用は増大し、世界各国へ洪水のように製品を輸出、外貨の獲得にも協力したが、これが米中の大きな貿易問題となってきた。

米国ではNASAをはじめ公的機関や企業でも膨大な予算を使い、基礎研究分野では世界一だ。日本でも理化学研究所はじめ大手製造業において基礎研究は幅広く行われている。世界の特許取得は1位が中国、2位米国、3位日本となっている。しかし、中国は基礎研究分野をおろそかにしているがため、ノーベル賞につながらないのだ。

韓国はどうか。サムスン飛躍のスタートは半導体と液晶、有機ELからだったことは12月号で述べた通りだ。世界でトップクラスの売り上げと利益を出したことで、日本を完全に追い越したと、すべての韓国人は自信をつけたのだ。

しかし、ホワイト国から外されたことでフッ化水素や半導体製造設備、ほとんどの特殊材料が日本の製品であることがわかった。現在まで日本の優れた技術によりサムスンが飛躍したことなど、韓国に都合の悪いことを同国のマスコミが一切報道しなかったからだ。それどころか今度は、日本製品の不買運動や日本旅行の中止、NO安倍に続き、オリンピックのボイコット示唆、放射能を理由にオリンピック選手のための食品空輸など、嫌がらせが後を絶たない。

なぜか日本人は教えたがり屋が多いが、文政権発足以来韓国の反日活動のエスカレートに嫌気がさし、日本人は韓国に愛想を尽かしてしまった。基礎研究などを日本から学んできた韓国ゆえに、ノーベル賞受賞の可能性は反日が続く限り、今後も期待できない。

いとう・すみお

1965年立命館大学経営学部を卒業後、伊藤製作所に入社。1986年同社代表取締役就任、現在に至る。順送り金型メーカーの老舗企業であり、国際競争力のある金型製造技術の確立に努め、無人化、高速化、精密化を追求したプレス加工で卓越した技術力を誇る。
（社）日本金型工業会・副会長、国際委員長を歴任。中京大学大学院ビジネスイノベイション研究科客員教授、国立ソウル科学技術大学校金型設計科名誉教授、神戸大学非常勤講師などを務めて後進の育成に寄与。
2017年4月春の叙勲「旭日単光章」受章。
著書に『モノづくりこそニッポンの砦』『ニッポンのスゴい親父力経営』がある。